



「ちはあーっす！！お荷物お届けにまいりました！」

いつものように元気よく挨拶して玄関のドアを開けると、そこに待っていたのは下着姿の奥さんだった。

「宅配のお兄さん！ずっとあなたが好みで、ずっとあなたの逞しい体が欲しいって思ってたの・・・我慢してたけど、もう限界よ！」

そう言って奥さんは俺に3歩半近づき、下着の上下をはぎ取った。

ブリンッ！！

大きなおっぱいが元気よく顔を出し、そして下に目を向けると毛の薄いオマシコが・・・。

俺は体育会系の宅配男子だ。

いつも体を動かしながら重い荷物を運び、たくさんのお家へ届けて行く。

"出来るだけスピーディにキビキビと"

そのことを身上にして頑張っている。

正直毎日クタクタになるけれど、その分"性欲"は強い。

だから・・・。

思いがけないタイミングで裸になった奥さんに驚きを隠せない俺だったが、無意識に下半身の肉棒は反応し、ムクムクムクムクッ！！と起き上がったのだ。

そしてもう俺は、勢いで奥さんを抱き寄せてしまった。

「んくっ・・・チュパ・・・ンチュプパ・・・」

奥さんの柔らかくて熟したカラダを抱きよせながら、激しく口づけ合う。

とても温かい・・・いや、熱い。体の芯が燃えたぎるような興奮が俺を支配する。

秋の色が濃くなった、昼下がりの静かな団地の一角。

"もう戻れない"

奥さんには旦那さんとお子さんがいることをこれまでの宅配の際にした世間話で知っていたが、平日のこの時は外出しており、自宅には奥さん以外には誰もいないらしかった。

仕事の途中でこんな快樂にありつけるなんて！！

俺はもう荷物なんてすっぽかして急いで裸になった。

そして無我夢中で奥さんの体を食ったのだ。

卑猥に膨らんだ柔らかくいおっぱいを揉んでチュパチュパと吸って・・・。

更に俺は勢いのまま、ダイニングキッチンの廊下だというのに硬い床すら気にせず、奥さんをまんぐり返しにしてオマンコを舐めすすった。

そしてその後、ビンビンに膨張し割れた腹筋にへばり付きそうなペニスの根元を持ってグッと下げ・・・奥さんと"合体"！！

爽やかな団地のど真ん中で、誰にも見せられない限りなく淫乱な時間が流れた。

結局、時間にして約30分。

まるで嵐のように過ぎ去った時間だったが、俺は最高のセックスに、それも仕事中にありつくことが出来たのだ。

そんな突如起こった願ってもない偶然の産物に俺は味をしめ、いつしか俺の宅配業務への情熱は宅配業務の途中でありつける奥さんたちとの裸の戯れへの情熱に変わっていった。

ことの始まりは一人の奥さん。

だけどいつしか主婦同士の噂話で俺のことが近隣の奥さんたちに広まり、一人また一人、といった具合に奥さんたちは俺を誘惑してきて、俺は次から次へと奥さんたちの体にチンポを挿入していった。

そして今や、俺が求めれば奥さんちも喜んでセックスさせてくれるというようなまさにウハウハなハーレム状態。

まだ小さなお子さんがいる方も多い30代の若い奥さんたちだったが、皆、家事も一段落した昼下がりの時間帯になると、熟した体の奥底から熱く煮えたぎるような性欲が湧き出てくるのだ。

それは言わば主婦業の宿命。

結果、俺はその奥さんたちの底なしの性欲を言わば一人占め出来るという状態。

時には奥さんたちは特段必要のないものをあえてネット通販で発注し、この辺りの配達を任されている俺の到着を楽しみにしてくれるようになった。

「こんにちはあ！！今日もお届けにまいりました！」

「ありがとーお兄さああん！待ち遠しかったあああん！！」

甘えた雌猫のような声で、女ざかりの奥さんが下着姿で近寄ってくる。

この団地での俺の評価は、良いチンポを持っていて、それでいてセックスも情熱的というもの。

団地内のほとんどのセックス大好きな奥さんたちに俺の存在は知れ渡っており、皆俺とセックスしたがつている。

「はやくおチンポ出して！！あなたも私たちとのセックスにもう夢中なんですよ??」

扉を開けるやいなや俺に駆け寄り、俺の体にすがり付きながら甘えた声で求めてくる奥さんに、俺の頭の中はウハウハ。まるでピンク色のお花畑だ。

準備万端！！

———体験版はここまでです———